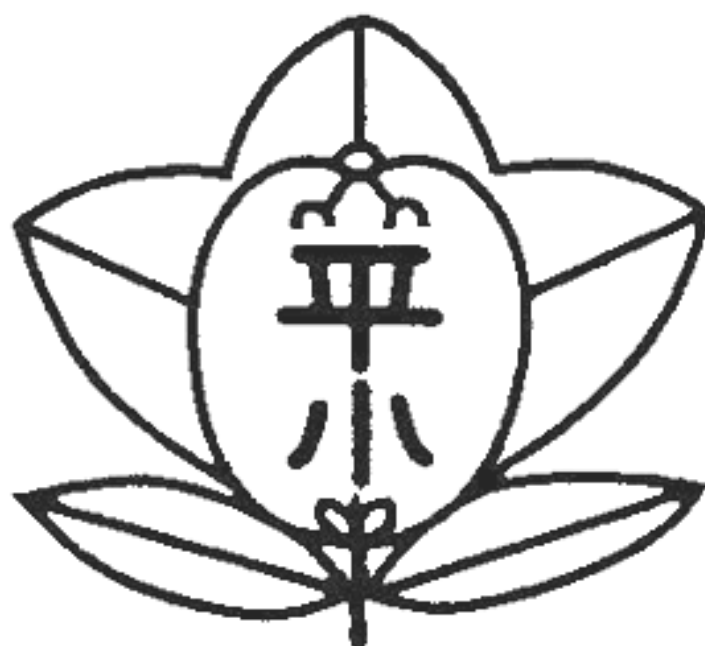


令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】



上尾市立平方小学校

目 次

上尾市立平方小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
（１）上尾市立小・中学校学力調査（令和７年１２月実施）	2
【２～６年：国語、算数】	
（２）全国学力・学習状況調査（令和８年４月実施）	7
【６年：国語、算数】	
（３）埼玉県学力・学習状況調査（令和８年５月実施）	8
【４～６年：国語、算数】	
2 学力向上を図る取組	
（１）各教科の授業における取組	10
（２）教育活動全体を通じた取組	13
本校の特色ある取組	
家庭教育との連携	

上尾市立平方小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

心豊かでたくましく 共に生きる子ども

○進んで学ぶ子 ○共に生きる子

○明るくたくましい子

学校課題研究主題

「発達段階に応じた『知る』『深める』『内省する』9年間の
道徳教育」

～さまりの意義を理解し、自らを律することのできる児童生徒の育成を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、算数で正答率が全国平均を下回っている。 ・国語、算数共に、知識・技能は平均に近いが、思考・判断・表現の正答率が低い。 ・国語、算数の記述式問題の正答率は全国平均を下回っており、特に算数の正答率は全国平均 48.5%より 4.7%下回った 43.8%であった。	・国語、算数ともに、学力レベルが県平均と比べると全体的に下回っている。 ・記述式の正答率に課題が見られるが、国語と算数を比較すると、算数の記述式の方がより正答率が低い結果が出ている。 ・どの学年も認知的方略の値が、県平均と同等である。	・国語では全学年を通して、文章の要約の記述や、指定された長さや構成を考えて文章を記述することに課題がある。 ・算数では、学年が上がるにつれて、四則演算の定着に課題が見られた。特に、小数・分数の乗法、除法に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科において習得する知識や技能を確実に習得する力。 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力。	③体験から学び取ったことと自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現する力。 ④記述されている内容から事実を正確に理解する力。	⑤課題に対して意欲をもち持続して取り組む力。 ⑥自身の学習活動の振り返りから学習課題を見付け、今後の学習の見通しをもつ力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○繰り返し試すことができる学習の場（試行錯誤） ○学習規律を整える ○教科担任制の充実 ○視覚的に分かりやすいようにポイントを焦点化する	○ICT端末の活用 ○意図的な言語活動場面の設定 ○体験から感じ取ったことを表現する活動の計画への位置付け ○ペア、3人組、グループでの話し合い活動の実施 ○実際の生活場面を想定した学習	○「分かる」授業づくり ○道徳教育の充実 ○自己有用感の育成 ○子どものよさを認め、伸ばす「ほめる教育」の実践 ○児童自身の自己調整力を伸ばす振り返り活動の充実

本校の特色ある取組

- 週3日の10分間朝読書
- 交流教育の実施
- 30分間の業間休みでの外遊びを通じた体力向上
- 黙動(働)の取組
- 教科担任制の充実

家庭教育との連携

- さくら連絡網を活用し、学校協力活動へのボランティアを募る
- ICT端末による家庭学習

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和7年12月実施)

2年(令和8年度3年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≡	○漢字の読み書きが身についている。 ●文章を書くことが苦手。 ●ものがたりの読み取りができない。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≡	要因分析
	思考・判断・表現	▼	自分の考えや伝えたいことを話すだけではなく、書く学習を多く取り入れた方がよかった。
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
国語科の重点目標	・言葉や漢字、条件の中で文を書く力など、学習する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ・記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	内容のまとまりが分かるように文章を書いている。	決められた条件に従って書く活動を取り入れる。
②	ものがたりを読みとる	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえている。	あらすじを確認しながら読み進める。

2年(令和8年度3年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≡	○九九や繰上りなしの計算はできる。 ●数直線のめもりの読み取りができない。 ●ものさしのめもりの読み取りができない。また、長さの減法が苦手。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	≡	
観点	知識・技能	≡	要因分析
	思考・判断・表現	≡	九九や簡単な計算を繰り返し行い、できるようになった。数直線やものさしのめもりの読み取りの繰り返しを行うことができなかった。
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
算数科の重点目標	・既習の知識を活用して、応用問題に取り組んだり、新たな知識を習得したりできるようにする。 ・既習の知識と自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	1000までの数	数直線の1めもりの大きさを理解している。	色々な種類のめもりの数直線にふれて、繰返しめもりの読み取りの練習をする。
②	長さ・かさ	ものさしのめもりの読み方を理解している。	実際に身の回りのものをはかる活動を多く取り入れる。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年(令和8年度4年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○ローマ字で表記されているものを正しく読むことができた。3年生から本格的に使い始めたICT端末の使用等も成果につながっていると思われる。説明する文章を書く活動では、考えと理由をわかりやすく説明することができた。 ●説明文の内容の読み取りに課題がある。前学年までの漢字を書くことにも課題がある。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 説明的な文章などを読む機会が少ないと思われる。文章を書く時などに学習した漢字を使わずに済ませていることが多い。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
国語科の重点目標	・言葉や漢字、条件の中で文を書く力など、学習する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ・記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えている。	文の中心となる言葉を考えたり注目したりさせ、その言葉を使った文章を考えさせることにより、構成を意識して文章を書けるようにさせる。
②	漢字を書く	第2学年に配当されている漢字を正しく書いている。	すでに学習した漢字を積極的に使うことを習慣化させるとともに、漢字のドリル教材やミニテストを活用して、前学年までに学習した漢字を書かせる。

3年(令和8年度4年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○加法や減法は身についてきている。球の切り口が円になることへの理解ができている。 ●乗法、除法の適用に課題がある。途中計算でも、かけ算九九の間違えがあったり、桁数が増えた時の処理の正確さに課題がある。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 実際に操作を伴う活動の経験不足が、操作して答えを求める活動の正答率の低さにつながっていると思われる。かけ算九九など、基礎基本の定着が完全にできていない。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
算数科の重点目標		・既習の知識を活用して、応用問題に取り組んだり、新たな知識を習得したりできるようにする。 ・既習の知識と自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。	
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	円と球	コンパスで同じ長さを測り取ることができることを理解し、長さを比べることができる。	実際にコンパスをつかった操作活動を十分にさせ、体験から学習内容を身につけさせていく。
②	わり算	余りのある除法の答えの確かめ方を説明している。	立式とともに、計算後に確かめ算を使って答えを確認することを定着させ、確かめ算の有用性に気づかせるとともに、確かめ算を活用することを習慣づける。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

4年(令和8年度5年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○話し合いの内容を聞き取る問題では3問中、3問が目標値と同等か、上回る結果となっている。 ●活動を振り返って話し合う問題では、中心をとらえたり、理由や事例を挙げて話したりすることに関して、30ポイントほど下回っており、課題が見られる。 ●主語と述語や連体修飾語、ことわざについての定着に課題がある。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	主語と述語の関係を、普段から意識して言葉を使うことができていない。 グループでの話し合いの機会の不足。
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
国語科の重点目標	・言葉や漢字、条件の中で文を書く力など、学習する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ・記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	言葉の学習	主語述語の関係 連体修飾語	短作文での文章形成の練習を通して、各力を身に付けさせる。
②	言葉の学習	ことわざの意味	ことわざに関する書物などを設置し、日常的にことわざに触れさせる。

4年(令和8年度5年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○命数法、位取り、数直線上の大きい数の読み取りなど、基礎が身に付いている部分もあった。 ●多くの観点等で目標値を下回った結果であった。特に小数の理解が低く課題である。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	▼	小数と児童の生活の結びつきに実感が薄いことが要因として考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	・既習の知識を活用して、応用問題に取り組んだり、新たな知識を習得したりできるようにする。 ・既習の知識と自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	小数	小数第二位+小数第二位の計算 小数第二位-小数第二位の計算	反復練習による定着を図る。
②	わり算	除法の計算を行う文章問題	問題把握の時間の確保をする。 反復練習による定着を図る。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

5年(令和8年度6年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○漢字を読むことが8.8ポイント上回っており、漢字を読むことが習得できていると考えられる。 ●基礎は1.8ポイント、活用は3.6ポイント目標値が下回っており基礎的な学力が定着していないと考えられる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	日々の学習の中で、決められた長さや内容について書く活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・言葉や漢字、条件の中で文を書く力など、学習する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ・記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	言葉の学習	連用修飾語について理解することができる。敬語について理解し正しく使うことができる。	日々の学校生活の中で気になることがあったら調べさせたり、繰り返し練習問題に取り組ませたりする。
②	文章を書く	文章全体の構成や展開を考えることができる。資料から読み取った事実を書くことができる。	授業時間だけでなく日常生活の中でも文章を書かせたり読ませたりする機会を増やす。

5年(令和8年度6年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○基礎は、0.1ポイント目標値を下回っており、活用は1.5ポイント下回っているが基本的な学力がほぼ定着していると考えられる。 ●領域別正答率では、図形の正答率が1.4ポイント下回っており、特に体積の正答率が低い。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	立式ができて計算間違いが多いと考えられる。特に少数のかけ算わり算の正答率が悪いと考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
算数科の重点目標	・既習の知識を活用して、応用問題に取り組んだり、新たな知識を習得したりできるようにする。 ・既習の知識と自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	分数と少数	少数を分数の形に直すことができる。整数÷整数の商を分数で表すことができる。	分数と少数の関係を視覚的にとらえさせ理解させる。
②	単位量当たりの大きさ	人口密度と面積からある町の人口を求めることができる。	立式はできるが計算を解くことに苦手意識を持つ児童が多いため、繰り返し計算問題に取り組ませる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年(令和8年度中学1年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○説明文の読み取りはできている。 ○聞き取りもできている。 ●漢字の「読み」はできているが、「書き」ができない。 ●文章を書く内容が目標値を10ポイント以上下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 ・デジタルドリルの活用により、漢字を書く機会が減少したからだと考えられる。 ・日常的に書く活動が少ないことや、書くことの指導が不十分だったからだと考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
国語科の重点目標	・言葉や漢字、条件の中で文を書く力など、学習する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ・文章全体の構成や展開を考え、自分の意見とその理由を書くことができるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	漢字を書く	前年度までに配当されている漢字を正しく書いている。	新出漢字のみでなく、これまでに学習した漢字を積極的に活用させる。
②	文章を書く	文章全体の構成や展開を考えている。	2段落構成の文章を書く活動を増やすなど、構成や展開を意識した授業を多く取り入れる。

6年(令和8年度中学1年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≡	○分数のかけ算・わり算の短答問題の正答率はほぼ平均を上回っている。 ●分数のかけ算・わり算や、拡大図と縮図の自分の考えを記述する問題の正答率が大きく下回っている。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	≡	
観点	知識・技能	≡	要因分析 ・10問計算の繰り返しの取組により、基礎学力の定着が図れたと考えられる。 ・基礎技能の定着を図ったため、自分の考えや解き方をまとめる、伝える機会が少なかった。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
算数科の重点目標	・既習の知識を活用して、応用問題に取り組んだり、新たな知識を習得したりできるようにする。 ・既習の知識と自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	拡大図と縮図	縮図を使って実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明している。	自分の考えや解き方をまとめ、説明するための指導や支援の工夫をする。
②	分数のかけ算・わり算	比較量が基準量の何倍になるかを分数を使って求める。	2つの数量の関係を、数直線を用いて表し、立式するなど算数的思考力の向上を目指す。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

(2)全国学力・学習状況調査(令和8年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項はおおよそできているが、関連付けて考えることに課題がある。また、情報を引用して自分の考えが伝わるように書き、表し方を工夫することに課題がある。
- ・文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

課題の要因分析

- ・ある程度、長い文章を読む機会が不足しているため、情報を関連付けて考えることが難しいと考えられる。そのため、朝読書の本を確保させ、読む習慣をつけさせる。また、授業において、接続詞を取り上げて、文章全体の構成や展開をとらえさせるようにする。
- ・自分の考えをまとめて、伝える機会が不足しているため、授業の中で考えをまとめたり、ペアや三人組に伝える機会を増やしたりしていく。

算数

考察(問題と結果の分析)

- ・基本的な計算や体積等の計算はおおむねできているが、平均の正答率は少し低い。
- ・図やグラフを比較し、読み取ったり、簡単な計算をしたりすることはできる。
- ・計算をすることはできるが、その式の意味や計算方法の理解が不十分であり、説明することができていない。
- ・小数の減法ができない。

課題の要因分析

- ・計算や図形はこれまでの積み重ねができていない様子であるため、こまめに復習を行う。
- ・授業で計算の意味や仕組みなどを自力解決できる児童が少なく、苦手意識をもっている児童も多く見られる。自力解決で言語化し、発表する機会を増やしつつ、解説を児童の言葉を広げながら丁寧に行っていく。
- ・小数の計算方法やずらし方、おろし方などを理解していない。復習を徹底する。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	
	校内	5-B			R7数値	3.8	3.8	3.5	3.9	3.9	3.9	
	県	5-B			伸び +or-							
4年	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルについては、県の平均と同等、市の平均よりも1レベル低い。 ・自己効力感が高いが、勤勉性や努力調整方略は、平均より低い傾向にある。											
	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・日々の授業で、教科書の文章を正しく音読する時間を設けたり、辞書を授業の中で活用したりすることで、言葉に対する理解を深めさせる。											
学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	5-B	2	4-A	R7数値	3.8	3.6	3.4	4.1	3.8	3.6	4.2
	県	6-B	3	5-B	伸び +or-	-0.1	-0.3	-0.4	0.0	-0.1	-0.3	-0.1
5年	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは、昨年度から2段階上昇している。学習方略と非認知能力については、すべての項目が減少しており、作業方略は昨年度から-0.4減少している。非認知能力の、自己効力感も昨年度から-0.3減少している。 ・読むことが39.4%、話すこと、聞くこと、書くことが41.5%であり、話すこと、書くことは県平均と比べて11%低く、読むことは県平均と比べて6%低い。											
	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・学習方略の中では特に認知的方略が、非認知能力の中では特に自制心がやや高い傾向にある。 ・無回答率が全体的に高いため、困難な問題に対面しても、諦めずに挑戦する気持ちを養っていく。 ・話すこと、聞くこと、書くことが県平均より低いため、全校お話会や、委員会活動などで聞いたことを自分の文章にまとめ、みんなの前で発表する機会を増やしていきたい。											
学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社交性
	校内	7-C	3	6-C	R7数値	3.6	3.5	3.3	4.0	3.8	3.6	4.1
	県	7-C	2	6-B	伸び +or-	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.1	0.1
6年	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは昨年度と比べて3伸びており、県と同レベルになっている。学習方略・非認知能力については、柔軟的方略・努力調整方略・自己効力感がそれぞれ0.1下がっている。向社交性のみ0.1上がっている。 ・登場人物の性格や心情の読み取りが県や市町村と比べて10%程低い。 ・文章全体の内容把握ができていない傾向がある。そのため、文章や情報を関係付けることができていない。											
	2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・努力調整方略、自己効力感が下がっており、自信の無さから努力する意識もともに下がっている傾向がある。そのため、国語に対する意識が低く、基本である文章を読むことができていないと考えられる。そこで、授業でできていることに対して評価をし、自己肯定感を高め、国語に対する意識を高めていく。また、読書の時間の確保やその有用性を説明し、文章の読み取り能力を高めていく。											

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力	
	R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	
4年	校内 4-A			R7数値	3.8	3.8	3.5	3.9	3.9	3.9	
	県 5-C			伸び +or-							
1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルについては、県や市の平均よりも1レベル低い。 ・算数は上位層が少なく、中位～下位が多い。											
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・上位層が少なく、中位～下位が多い結果から、基本的な四則計算や習熟に取り組む時間を増やし、計算技能や学習内容の定着を図る。											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力	
	R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性
5年	校内 5-C	2	4-B	R7数値	3.8	3.6	3.4	4.1	3.8	3.6	4.2
	県 5-B	2	4-A	伸び +or-	-0.1	-0.3	-0.4	0.0	-0.1	-0.3	-0.1
1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルは、昨年度から2段階上昇している。学習方略と非認知能力については、すべての項目が減少しており、作業方略は昨年度から-0.4減少している。非認知能力の、自己効力感も昨年度から-0.3減少している。 ・わり算の計算や数直線の読み取りは県平均と比べて15%近く低い、グラフの読み取りは県平均を上回っているものも多い。											
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) ・学習方略の中では特に認知的方略が、非認知能力の中では特に自制心がやや高い傾向にある。 ・代金の見当をつける、正三角形の性質を理解する問題は無回答率が0%だった。ただ、全体的に無回答率が高いため、分からない問題や困難な問題に対面しても、諦めずに挑戦する気持ちを養っていく。											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力	
	R8レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
6年	校内 5-A	2	5-C	R7数値	3.6	3.5	3.3	4.0	3.8	3.6	4.1
	県 6-C	2	5-B	伸び +or-	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.1	0.1
1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) ・学力レベルが県と比べて1低い。学習方略・非認知能力については、柔軟的方略・努力調整方略・自己効力感がそれぞれ0.1下がっている。向社会的性のみ0.1上がっている。努力調整方略と自己効力感が下がっていることから、学力レベルの伸びが低迷していると考えられる。 ・整数と小数の大小比較や小数の乗法など、小数に関する問題の正答率が県平均に比べて10%以上低い。											
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) 努力調整方略、自己効力感が下がっており、自信の無さから努力する意識もともに下がっている傾向がある。全33問中、20問正答率が県や市町村よりも低く、学力が伸び悩んでいることが分かる。そこで、復習や基礎定着の時間を確保し、全体的な底上げを目指す。											

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科において習得する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ②既習の知識を活用して、新たな知識を学習できるようにする。	③体験から学び取ったことと自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。 ④記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。	⑤課題に対して意欲をもち持続して取り組めるようにする。 ⑥自身の学習活動の振り返りから学習課題を見付け、今後の学習の見通しをもてるようにする。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①	①音読、ひらがな、カタカナ、新出漢字等を繰り返し練習する取組。	
算数	②、④	②計算カードを繰り返し練習する取組。 ④文章問題では、単位や分かっていること、聞かれていること等に印を付けさせる取組。	
生活	③	③「生活科カード」に学んだこと、気付いたこと等を記入させる取組。	
音楽	①	①鍵盤ハーモニカを繰り返し練習する取組。 ①リズム楽器が正しく使えるように繰り返し練習する取組。	
図画工作	⑤	⑤課題を明確にし、準備物を揃え、導入の工夫と、活動中の声掛けを得ながら、自分の作りたいものを最後まで作り上げる取組。	
体育	⑥	⑥振り返りカードに、自分のできたことや課題等を記述し、次に生かそうとする取組。	
英語活動	⑤	⑤課題を明確にし、英語を使って、相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとする取組。	
特別の教科 道徳	⑥	⑥道徳ノートに自分の考えを記述したり、発表したりして、今後に生かそうとする取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科において習得する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ②既習の知識を活用して、新たな知識を学習できるようにする。	③体験から学び取ったことと自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。 ④記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。	⑤課題に対して意欲をもち持続して取り組めるようにする。 ⑥自身の学習活動の振り返りから学習課題を見付け、今後の学習の見通しをもてるようにする。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③、④	①国語辞典の活用の習慣化。 ③、④重要な語句にサイドラインを引かせる。文末表現、キーワードを発見させる。	
社会	②、③	②地図帳と関連付けながら、学習を進めていく。 ③根拠となる資料を選択し自分の言葉でまとめる活動をする。	
算数	①、④	①ドリル（デジタルを含む）等を活用し年間を通した復習。 ④問題文から必要な計算を考えさせる。	
理科	③	③実験の予想と結果から、何故そうなったのかを考えさせる。考察時に話し合いの場を設ける。	
音楽	①、⑤	①音楽を形づくっている要素に着目し、演奏技能に生かすことができるようにする。 ⑤最後まで諦めずに演奏できるようにする。	
図画工作	①、⑥	①新しい技法を身につける。 ⑥できた作品を鑑賞し合う。	
体育	①、③	①技や運動のポイントを動画等で紹介する。 ③友達のがよかった動きやこうした方がよくなるポイントを伝え合う時間を設ける。	
外国語活動	⑤	⑤外国語の活用場面を想定しながら、自分の考えを発表させる。	
特別の教科 道徳	③、⑥	③「自分だったら」という視点で発表をさせる。 ⑥自身の生活に活かせるような振り返りを書かせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科において習得する知識や技能を確実に習得できるようにする。 ②既習の知識を活用して、新たな知識を学習できるようにする。	③体験から学び取ったことと自分の考えを結び付け、筋道を立てて表現できるようにする。 ④記述されている内容から事実を正確に理解できるようにする。	⑤課題に対して意欲をもち持続して取り組めるようにする。 ⑥自身の学習活動の振り返りから学習課題を見付け、今後の学習の見通しをもてるようにする。

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④	①新出漢字とそれに関連した語句を確認し理解する取組。 ④文学的文章の場面と場面、説明的文章の段落と段落等の関係を明確にして文章を読み取る取組。	
社会	②、⑤	②前単元、前時の学習内容を活用して、次時の学習へと繋げ、探究心が湧くように導入を工夫する。 ⑤児童が学びたいと思うような魅力的な課題を設定したり、ICT機器を活用したりする。	
算数	①、②	①授業の冒頭に、四則計算やその単元に関わる基礎的な計算を取り入れる。 ②単元にかかわる既習事項を繰り返し復習し、本時の内容により組みやすくする。	
理科	②、③	②前単元、前時の学習内容を活用して、次時の学習へと繋げ、探究心が湧くように導入を工夫する。 ③結果をまとめる時に、自分の予想や実験の結果を自分の言葉でまとめるようにする。	
音楽	①、⑤	①音楽を形づくっている要素に着目し、自分たちの演奏に生かすことができるようにする。 ⑤友達とともに歌ったり演奏したりする喜びを味わわせる。	
図画工作	⑤	⑤作品のゴールをイメージさせ、あきらめずに活動させる。	
家庭	①、⑤	①地域の人材を積極的に活用し、調理や裁縫などの知識・技能の確実な習得を図る。 ⑤学校で学んだことを生活改善に生かしていけるようにする。	
体育	①、③	①運動が苦手な児童でも知識・技能が習得できるようにスモールステップを組んだり、教材、教具を工夫したりする。 ③掲示物やICT機器を活用し、ポイントを焦点化させ、話し合いを活性化させる。	
外国語科	②、④	②前学年、前単元で学んだことを想起させて、本時、本単元の学習に入る。 ③授業の冒頭に児童が主体的に取り組めるような魅力的な課題を提示し、言語活動を充実させる。	
特別の教科 道徳	③、⑤	③児童の実態に合うような具体例を提示し、自分事として考えられるようにする。 ⑤学校で学んだことを実生活とリンクさせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す



(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
◆読書活動	○週3日の10分間朝読書（月、火、木） ○月に1度の教職員による読み聞かせ
◆交流教育	○近隣幼稚園・保育所との連携交流 ○縦割り班活動による異学年交流
◆30分間の長い 業間休み	○外遊びを通じた体力向上 ○充実した集会活動の時間の確保
◆黙動(働)の取組	○黙動…静かに落ち着いて教室移動を行う ○黙働…落ち着いて清掃活動に取り組む
◆授業形態の工夫	○教科担任制の充実(5年生以上)
家庭教育との連携	
◆地域と連携した教育活動 ・学校応援団 ・PTA ・学習支援ボランティア	○保護者による学習支援。 例)・家庭科の調理実習やミシン実習 ・生活科の学区探険等の引率 等 ○PTA本部、学校応援団を中心としたPTAによる学校行事、特別活動行事の運営補助 ○地域の防犯パトロール、保護者による児童の登下校の安全確保・見守り
◆ICTの効果的活用による連携	○欠席児童に向けたICT端末による双方向オンライン学習 ○ICT端末による家庭学習(3年生以上) ○地域学校保健委員会などの行事におけるオンライン参加の実施。